

夢窓幼稚園通信第59号

2026年 2月 27日

朝なかよし(通常保育前の朝の預かり保育)の時間に、子どもたちがホールで遊びたいと言うので、数人で上がっていくと、一人の子が靴を脱ぎ出しくつ下になってよく滑る床でスケートごっこを始めました。

スー スー と伸びやかに進んだり、ジャンプしたりくるくる回転したり……かなりそれらしく、気持ちよさそうに表現している姿に誘われるように、他の子たちも次々に靴を脱ぎ、みんながスギアスケットのアスリートに！……そしてホールは、スケートリンクになりました。

みんな わくわくと楽しそうに滑り、途中からは「したに いる ーも よんで こよう！」と、

あれよ あれよでアスリートがさらに10人も増え、競技前の公開練習さながらのクレードです。

「あたまたの うえまで あげて……」とは、ペアも練習を始めたのでしょうか？

オリンピックの競技を繰り越し視ていた子もきっと多くいたことでしょう。

そして子どもたちは いたく心を動かしていたに違いありません。

子どもたちの遊びは こんな風に始まり展開するのだな……と、あらためて思いました。

そして、どこでも 何でも見立ててしまうのですから、のびやかで自由です。

外なるものを吸い込んで子どもたちは、それらを内なるものとしてふくらませ、まるごとそのものとして生きていくのでしょうか。

日々 そのように遊びを生み出し、その中を生きいき、
世界を感じ、人と人とのやりとりを通して自分自身を
ゆたかに開きつづけていく……という、ドラマチックで
ものすごく偉大なことを、目を輝かせてやっている子ども
たちなのですね。

お家の方が顔を合わせて、職員同志が、子どもたちの
様子を前にして あちらこちらで今、「大きくなったね」と
言葉を交し合うのをよく耳にします。
ほんとうに 大きくなったのですね！

今年度 さいごの月を迎えます。

することが沢山ありますが、子どもたちにとって何より大切な
それぞれらしく遊べる時間も たっぷり持つようにしたいと思います。

そして 忙しい年度末でも、子どもたちが大人の中に自分の
“いつの日か”を感じ 夢見ることができるよう、私たちは
少しでも より瑞々しく、わくわくと 今日もいたいと思います。

園長 弁光 泰雄